

夢

PART 2

2004年10月23日
午後5時56分
新潟県中越地震
そして
その時

長岡市立東中学校昭和33年度卒業307組

はじめに

僕ら東中307組同級生は、休耕田でソバを植え、12月にソバ打ち忘年会・ミニ同級会を開催し旧交を温めてきています。

3回目の2004年その日の翌日曜日、ソバの収穫を予定していましたが、ソバを刈り取るどころの騒ぎではなく中止となりました。

収穫出来ずに放置されたソバは大半実が落ち、半ば今年のソバ打ち忘年会の開催は無理だろうと皆が諦めかけていました。

11月に入り、少し気持ちに落ち着きを取り戻し、念のため、ソバ畑に行くと、朝露で少し濡れた疎らなソバが秋風に揺れその様は刈り取ってくれと叫んでいるようでした。急遽、残ったソバを収穫することにしました。

少量で貴重なソバ粉はすっしりと重く心に伝わり、これでなんとか集まろうと決め、12月11日に3回目のソバ打ち忘年会の開催へとこぎつけ、同級生15人が集まりました。

当日は地震の話題で持ちきりで、なによりもお互いが無事だったことを喜び、これからも元気でいようと励まし合い、同級生としての絆をさらに強いものにした会となりました。

そして、ことのほか味わい深いソバと地酒の勢いは参加者全員の気持ちを動かし、こんな経験は二度としたくない、この時の貴重な体験を一筆書留めようじゃないかと津田君の提案で決まり、今年の2月、同級生52人全員に呼びかけ、34人の貴重な体験を記した手記をいただき、この冊子にまとめ刊行したものです。

地震メモリー

【概況】 10月23日午後5時56分頃、新潟県中越地方の深さ13kmでM6.8の地震が発生、この地震により、川口町で震度7、小千谷市、山古志村、小国町で震度6強、長岡市、十日町市、枋尾市、越路町、三島町、堀之内町、広神村、守門村、入広瀬村、川西町、中里村、刈羽村で震度6弱を観測したほか、東北地方から近畿地方にかけて震度1から5強を観測した。この地震を新潟県中越地震と命名（気象庁報道発表資料より）

◇ 震度5以上を観測した地震の日時（延べ16回）

10月23日	17時56分		17時59分		18時03分		18時07分		18時11分		18時34分	
	マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度
	6.8	7	5.3	5強	6.3	5強	5.7	5強	6.0	6強	6.5	6強
	18時36分		18時57分		19時36分		19時45分		19時48分			
マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度			
5.1	5弱	5.3	5強	5.3	5弱	5.7	6弱	4.4	5弱			

10月24日	14時21分	
	マグニ チュード	最大 震度
	5.0	5強

10月25日	0時28分		6時04分	
	マグニ チュード	最大 震度	マグニ チュード	最大 震度
	5.3	5弱	5.8	5強

10月27日	10時40分	
	マグニ チュード	最大 震度
	6.1	6弱

11月4日	8時57分	
	マグニ チュード	最大 震度
	5.2	5強

11月6日	11時15分	
	マグニ チュード	最大 震度
	5.9	5強

◇ 人的被害

地域名	死者	負傷者
長岡	7	2,108
中之島		18
越路		93
三島		8
山古志	3	25
小国	1	24
合計	11	2,276

2005.6.1現在

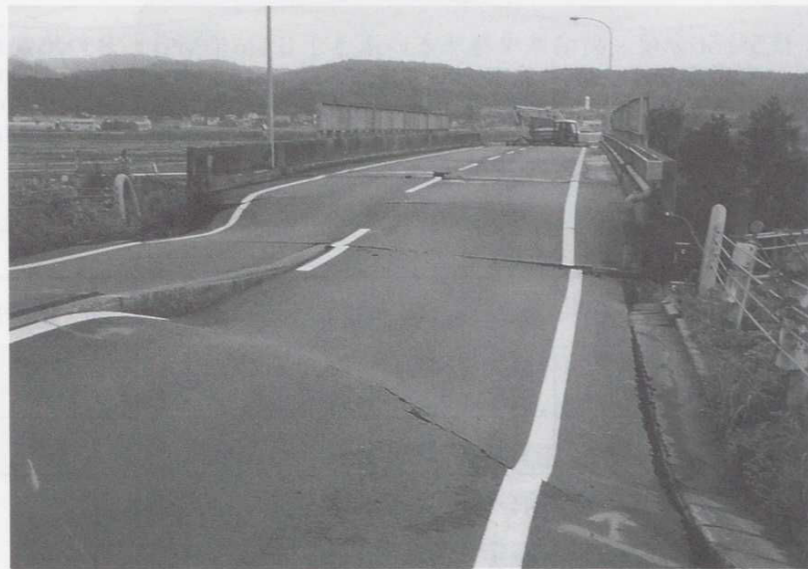
◇ 建物（住宅）被害棟数情况及び応急仮設住宅の状況

地域名	全壊	大規模 半壊	半壊	一部 損壊	仮設住宅 建設戸数	入居 戸数	入居 世帯 数	入居 者数
長岡	924	915	4,927	42,241	843	829	753	2,389
中之島		2	24	2,573	65	45	42	144
越路	152	127	697	2,624	114	110	105	396
三島	3		25	1,664				
山古志	328	59	237	123	632	631	561	1,755
小国	125	124	518	1,175	118	118	106	308
合計	1,532	1,227	6,428	50,400	1,772	1,733	1,567	4,992

注 中之島は7.13水害により建設した仮設住宅

2005.6.1現在

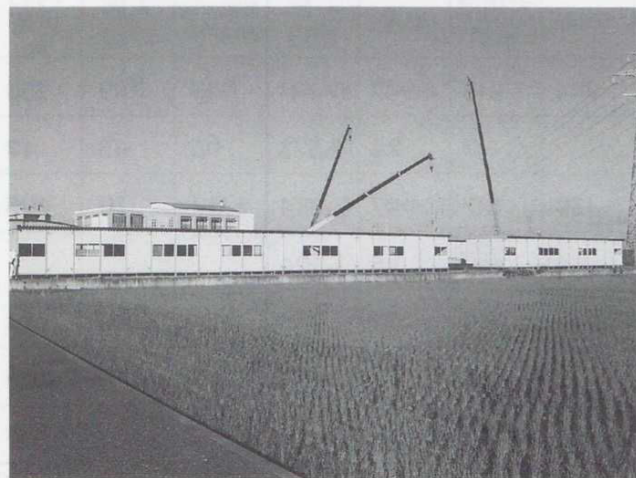
地震写真のあれこれ



越路町巴が丘袴線橋の下はJR信越本線



近所と助け合って避難生活



仮設住宅の建設が始まる

その時 私は

南魚沼市六日町 岩井 トシ子

いつもと変わらず、平穏な一日が過ぎようとしていた。夕飯の準備も半分位終わりお汁のナベをガス台に上げ、仕上げの味噌を入れようと思ったその時“グラグラ”……「おや何だろう？」と思ったら、今度は大きくグラグラと来た。

「地震だ」電気は消え、ガスも消え真っ暗になってしまった。私はちょうど孫と(小1の男の子と6歳の女の子)台所にいたので、すぐテーブルの下に2人の体を抱いて伏せた。とても怖いと思いました。

たまたま、主人は工作中、電話をしたがどこにも通じず連絡のしようがなく不安でした。

家は歩けない爺ちゃんと耳の聴こえない婆ちゃんが居て、2人を何とか外に出さなくてはと思うと気がきではありませんでした。(我が家は4世代8人家族)何とか自分の気持ちを落ち着かせようとしているところに長男が帰ってきたので、嫁さんと3人で外の車にやっと年寄りを乗せることが出来ました。その後、近くにあるホテル越路荘に避難し、車の中で朝まで過ごすことになりました。

信号も消え、道路も真っ暗……でも空はキラキラと星が光って、とってもきれいに見えました。お天気だったことが不幸中の幸いかと思った次第です。

これが六日町に居ての率直な感想です。

ようやく、朝6時頃に電気がとまり、家に帰って後片付けです。

六日町は夕食時火を使っている家庭も多いなか火事が1件もなく本当によかったと思いました。

後になって見ると12時間位ライフラインが止まっただけなのに……それも電気が消えたくらいなのに、普段は気付かなく当たり前だと思っている生活がいかに有難いかという事を改めて考えさせる出来事でした。

いつ自分のところにふりかかって来るかわからない災害に対して、いざという時の心構えはいつも考えておく必要があると思いました。

天災は忘れた頃にやってくる。

残りの人生、楽しい事多かれと願ってペンを置きます。芋



10・23 5:56 その時私は

厚木市 鈴木 美代子

平成16年10月23日、小春日和の土曜日、ここは、新宿駅近くのビル5階の居酒屋、私達表町小学校6年18学級卒業生ミニ同級会のメンバーはビールがまだかと待ちわびていました。小学校から東中307とずっと同級生の佐藤康夫さんも一緒です。

突然、ビルが「グラッ」と揺れました。誰からともなく、「地震だ」の叫び声、それも騒いでいるのは私達グループの長岡から参加している人、満席の他のグループは、皆どこ吹く風と飲み騒いでいました。それでも「グラッ、グラッ」と4～5回大ゆれにゆれた時、誰からともなく「震源地調べよう」と言い出しました。それからは電話は通じない、テレビの情報も入ってこない。やっと断片的に「震源地は長岡！」もうびっくり久保さんが一番おどろき、もう帰ろうと言い出しました。

私の頭には今日は日帰りの予定だから一足先に東京駅に向かった滝沢妙子さんと海津ミイ子さんの事が気になり心配でたまりませんでした。5時56分その時新幹線は止まり高速道路も不通になったわけですから。

数日たって皆さん大変な思いをしながらも、それぞれのルートで長岡へ帰ることが出来たと聞き、ほっと一安心しました。

しばらくしてから堀口さんから、なつかしいメールが届きました。地震の時の皆さんの様子も手に取るようにわかり改めて事の重大さを知りました。そして「そば打ち忘年会」やりますと強いメッセージでした。“そうだ今年は何が何でも参加しよう”と

心に決めました。それからは交通手段をどのようにしようかと迷い、未だ新幹線全線開通ではありませんから越後湯沢から代行バスに乗りついで前日長岡に入りました。復興途中の関越自動車道を通り時間は2倍近くかかりましたけど、皆さんのお元気な姿に安堵しました。

この4月から長岡も近隣の町村が合併し、どんどん大きくなると聞いています。山古志も含めて新たな歴史の幕開けですね。故郷長岡の活気ある復興と発展を心から願っています。

また、おいしいおそばを食べに皆さんに会いに行きます。平17・3・7芋



その日その時

長岡市永田 堀口 晴夫

1 その日

その日は朝から同級生と会っていた。朝は門谷さんが毎年開催している「山野草展」を越後丘陵公園に妻と一緒に出向き、門谷さんから説明を受けながら鑑賞した。その足で昼は伊藤啓子さんと近代美術館で開催中であった落谷虹児展を鑑賞し、夕方自宅に戻った。

2 その時

自宅に戻り、テーブルでパソコンに向かっていたその時でした、突然大音響とともに激しく家がゆすられた。地震と感じ、すぐに治まると思ったが、だんだん揺れは激しくなり、ガラスの割れる音、物が落下する音と同時に、電線がちぎられるような。“プツン”という音がしたと思ったら停電した。普通の地震でない”大地震だ””家が壊れる”と感じ真っ青になった。危険だと思い靴を履き、帽子をかぶり、暗い中で懐中電灯や携帯ラジオを捜して、作動することを確認して家の外に出た。

近所の人たちと連絡しあいながら、お年寄りを開設された避難所に案内したあと、マイカーを家の前に出して余震に耐えながら車中で泊まった。親、兄弟、親戚、会社、友人のことが気がかりだったが電話はほとんど通じない状況になっていた。

翌日以降ロサンゼルスの本田さんや福島の野地さん、六日町の岩井さん、新発田の伊藤さんら遠方の同級生から被害状況を心配してくれて、電話が入った。

同級生と話ができちょっと落ち着いた。

3 主な被害状況

- ・ 隣家の瓦が我が家の屋根に落下し屋根一部損傷
- ・ 電子レンジ、オーブントースター、炊飯器、受話器、本箱が損傷
- ・ 食器類一部損壊
- ・ 停電3日間、ガス4日間停止(ガスの件で北陸ガスに電話をしたら同級生の清水征

二さんが対応した。)

4 感じたこと

- ・ 家が壊れると思いが怖かった
- ・ 防災用具は定期的に点検しておかねばならない。
- ・ 防災訓練は時々実施しておく必要がある。
- ・ マイカーは給油をしておかなければならない。
- ・ ご近所の協力関係を確立しておくことが重要である。以上芋



2004年10月23日午後5時56分

長岡市錦 太刀川 恵美子

その時は、何の前触れもなく突然きたくガタガタ、グラグラと「地震だあー」主人の叫び声と共に、私はハロゲンヒーターのスイッチをOFFにした。(我ながらたいしたもんだと自画自賛)

運が良い事に、その日は土曜日で早夕飯を終えてあとかたづけも終わっていた、という事はテーブルに食器類は無かったので破損は免れた。その後外に出て、近所の人達と長い一夜を過ごすことになるのだが、夕飯前だった人達は、時間がたって少し落ち着いてくると「夕飯を食べていないのでお腹か空いた」という人達がけっこういたからである。

前に戻るが、マグニチュード6.8の後すぐに主人は2階に上がり、息子夫婦、孫(5歳、4ヶ月2人)に呼びかけ、5歳の孫をおんぶして暗がりの中、懐中電灯をつけ裏庭へ出る。<帽子、長靴、長座布団をもって>すぐにまた、次の余震が来る、孫と長座布団をかぶる、孫に恐怖心を与えないために「大丈夫、大丈夫」と声をかける、半ば自分自身に言い聞かせなが



ら。

そのうち、三々五々、町内の広場のような場所に人々が集まる。絶え間なくグラッ、グラッ>と揺れる、そのたび「キャーキャー」叫びながら布団をかぶる、携帯電話で知人、親戚に連絡を取ろうとするがつかない。

……不安・不安・不安

夜空が澄んでいてすごくきれいだったのを覚えている。

少しずつ地震の間隔が遠のいた、その隙に人々は家に荷物を取りに行く、私は息子夫婦に赤ん坊のおむつとミルクを持ってくるようにいい、私も家に入り何が一番必要かつ便利かと考えた。

——思いついたのは、ウイスキーと貝柱、チョコ等を袋に入れ外に出る。今考えてみても中々よい考えだったと思っている、軽くてエネルギーがありそのうえ、かさばらない。

大分人々も落ち着いて来た。避難した人達同士で自分たちの持って来た物を分け与えている——なかなか良い光景です。実際カイロや赤ちゃんのミルクに必要なお湯等、本当に有難かった。

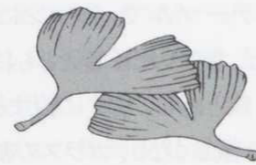
——感謝、感謝

その間も余震は絶え間なくやって来る。段々寒くなる。避難した人々も1人2人と自家用車を持ち出し、車に入り始める。主人は町内役員として町内の見回りに行く。私達家族も寒さが我慢出来なくなり、幼い孫達のことを考え車に乗り込む。最低限の物、特に赤ん坊に絶対必要最低限度の荷物を持って、まんじりともせず、長い一夜が明ける。もちろん余震は続く。やっとラジオで現在の状況が判り始めた、震源地は中越地方マグニチュード6.8それでも判らないより判ったほうが少しは心が落ち着く。はっきりなしに余震は来る。それもかなり大きい。

2、3日もたつと、皆地震博士みたいになって“グラッ”となるたびに今のは震度いくつだなどとあてっこして、ラジオがそのように放送すると「ホラ、あつたでしょう」などと自慢話になる。でも怖さは

ずっと続いている。

今回の地震で家は多少壊れたが、家族の絆、ご近所の絆に感激しました。(これは思っていた以上でした。嬉しい誤算ともいえるべきでしょうか?) 遠くの親戚より近くの他人の諺の意味がよーくわかりました。お互い“大丈夫? ガンバロー”と励まし合い、慰め合いました、世の中捨てたものではないとしみじみ実感致しました。悪い方にばかり考えず、得た教訓も多々多かったです。《307のみんな 負けずにがんばろうネ》^芋



地震

東京都目黒区 西形 幸子

10月23日その日は長岡の甥の結婚式でした。東京から主人と出席していました、主人は次の日、用事があるために式が終わってすぐに乗れる新幹線に乗り帰京、地震の時は上野駅あたりで無事でした。

私は次の日は日曜日だったので、夕方蓬平の福引屋の車が迎えに来て下さって、姉達と旅館に行きました、旅館に着きロビーの所でお花が綺麗でしたので写真を撮ったりして6階の部屋に案内していただき、お茶でも飲もうかとしていた時に、あの地震、何がなんだか判らず、すごい揺れ、ドッスン、バタン、ガタガタ、テレビが落ちたり、今でも床が落ちそうで、恐ろしくてテーブルに頭を入れて「助けて」「どうしてこんな目にあうの」などと騒いでいました。

少し収まった時に旅館の方が迎えに来て下さり、階段を走って降りました。ローソクの灯かりの下ロビーで一夜を過ごし、次の日曜日は太田小中学校の体育館へ行き、ヘリコプターでペットボトルのお茶や、おにぎりや毛布が届いたときは嬉しかったです。仮設トイレが出来ほっとしました。でも、体育館で泊まったときは強い余震が何回もあ

り、上から物が落ちてくる様で怖かったです。

次の月曜日は地割れした道を通り、壊れた家や煙が出ている家を横目で見ながら途中まで歩いて帰ってきました。

実家は物が落ちたりしていましたが住める状態だったのでよかったです。

私は長野回りで帰りました。

温泉にも入れず、食事でも食べられませんでした。毎日の普通の生活、お風呂に入れる幸せを感じている今日このごろです。^芋



新潟県中越地震 その時その後 L・Aにて

307 本田 眞吾

「へい・シンゴこっちへこいよ! テレビで日本の地震を映しているぞ! 君の知っている所ではないか?」サンフランシスコの下町のバーのカウンターの向こうからジムが叫んでいる。半分は冗談と受けとりながら、念のためカウンターの向側のテレビニュースを確かめに回り込むと、冗談ではない! 地震は本当に私の故郷長岡である。「たまげたてー」とはこういう時に使う言葉であろう。

昔の新潟地震の時は東京に居て経験をしていないし、現場も見ていなかったのだから知らないのだが、後にロサンゼルスに移ってからは2回大きな地震を経験している。この時は現場も見ているし、私自身も怖い思いをしている。

地震の怖さもさることながら後の生活の悲惨さも知っているのだから、「たまげたてー」という愕きには、家族、友人、知人は大事無いだらうか? 怪我は無いだらうか? 食料は? 医療? 今の日本なら非常事態でもダイジョーブだらうか? 10月も終わり近くで雪の季節、後の生活は? 等々の複雑な思いが込みあげてくる。

旅先のサンフランシスコでは日本との連絡も思

うようにならないから急ぎ仕事を切り上げロサンゼルスへ帰り、長岡の家族、知人の無事を確認、307の友人にも名簿順で電話をしてみた皆がテンテコマイの時、留守電が多くかえって迷惑であるから、数名無事を確認して止めてしまった。

後で聞くところによると本震は必死だったが後の余震で精神的ダメージを大きく受け大変であるとの事、正に経験者でなければ解らない傷である。

ロサンゼルスから現場に救援しなければならぬ。知人である現在ロスの外務省の総領事が新潟県出身なので相談したところ、今の日本では物資はすぐ集まるだろうから義援金が良からうとの事になった。

移民の国アメリカでは昔から各県出身者がお互い生き延びるために助け合いの各県人会があり、非常事態や日本人街のお祭りの時などに大変良く機能し、心の拠り所となっている。私は普段疎遠なのだが新潟県人会に連絡してみたところ、メンバーの皆さんは高齢者が多く動けないので、私が義援金募集の係と相成った。経緯は色々あったが他県の県人会の人達の献身的な援助を得て、また、ロスの多くの日系メディアも幾度となく義援金募集の呼びかけに協力してくれた。有難いことである。そして、当地の歴史ある新聞「羅府新報」に義援金協力へのお礼を出し締め切りとした。

これから、地震の現場ではこの冬の雪解けをまって本当の苦闘が始まるのである。義援金はささやかではあるが海の彼方よりの移民の人達の故郷を思う心が被災者の人達に伝わり生活復興の糧となればと祈るばかりである。

「がんばってくれてー」

合掌 2005年4月4日^芋



中越地震その時

長岡市江陽 門谷 安

10月23、24日は丘陵公園で秋の山野草展、今日は初日ということで、終了後見附市で一パイ飲むことになり、草友と二人で車で出かけました。

その前に、チョットなじみの園芸店に立ち寄ることになり、店内を見て歩き、お茶をいただいている時グラグラとハウスが揺れた。一瞬何が起きたか判らない、一緒に来た友人が地震だと叫ぶ、揺れはさらに激しくなりテーブルにしがみつき、自分を支えるのがやっとであった。ハウスが倒壊するのではと思ったが大丈夫のようである。

次々に余震が続く中外へ出ようと思うが停電で真っ暗、出口は植木が倒れて思うように出られない、余震が治まったその隙に外へ、水連鉢の水が横揺れでパチャパチャとこぼれている。

車のテレビのスイッチを入れると、震源地は小千谷市震度6強、長岡の方が震源地に近い。

家、子供の事が心配になり電話するがまったく通じない。飲み会どころではない、すぐ帰ることになり国道に出たが大渋滞、その間も車は余震で大揺れ、長岡方面はまったく動かず、あきらめてUターンしどうにか中之島から与板経由で帰る。

住宅地の塀があちこち倒れている、益々、子供のことが心配になりました。

飲みに行かなければと何度も思ったことか、街の中心部に入った時、また、大きな余震が続き大渋滞、電柱も家も大きく揺れて倒れて車に被さってくるのではと怖い思いをしました。

どうにか与板へ、コンビニの前で砂が吹き上げ、道路は陥没、またまた心配になる家のことが。

しかし、長岡に入ると道路はなんとも無い、見た目は大丈夫被害は無い様である。ようやく家へ、あーよかった家が倒れていない、友人とは互いの無事を喜び合って別れた。

子供とは連絡が取れないでいたが、近所の方が「さっき帰って来て無事を確認し仕事に戻りました。」とのことで一安心。

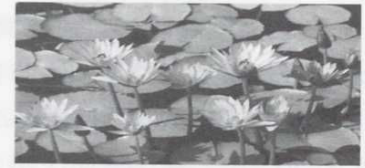
家の中に入ると中はメチャクチャ、手のつけよう

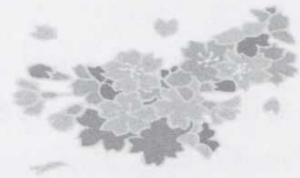
がない。幸い電気・ガス・水道は止まっておらず生活に問題はなさそうだ。

夜遅くやっと親戚とも連絡が取れ皆無事でした。

それからしばらく余震に怯えながら、昼は仕事、夜は子供と一緒に1階玄関に近い部屋で眠り、そして何度も外へ飛び出たことか。

自分としては経験したことが無かった大地震、皆様も大なり小なり被害を受けたと思いますが、互い無事であったことが何よりと思います。芋





わたしの長岡、育った家そして花火

館林市 岩田 久子

ぐらぐら地震発生、その時、私は、夕食の準備でキッチンに立っていました。火災を防ぐためにガスの火を消して、出入口を開け揺れの様子を見ながらテレビのニュースに目を向けていました。主人はとっさに冷蔵庫にしがみついていた。中越の震度6~7、館林方面震度5で私共には幸い被害はありません。

私は、長岡で新潟地震を体験していますが、主人は今回の大きな揺れは初めてで、「ああ怖かった」言っていました。

それからはテレビのニュースで長岡の被害や危害を見ては実家や友人達が気になり、電話をしても通じなく心配でした。

翌日、実家の隣の奥様と電話がやっと通じ「屋根の瓦が落ちそうで大変、怪我をしたらお宅の責任ですよ！ガラスが割れてパニックです。」と怒鳴られ私は受話器を耳より離して、多々「すみません」と答えるだけです。何も出来ません。

友人や町内会長さんは、今は危ないので来ないほうがいいですよと伝えてくれました。会長さんが時々見回りに行き様子電話で知らせてくれました。要注意の張り紙が付いているとの事、修理不可能とも言われました。

道路は速度50キロ、一車線可能、でも気がかりなので、11月12日、13日、主人と車で長岡へ行きました。

町内会長さん、隣の家、その他大工さんなど6軒にお詫び、お願い、お礼諸々伺いました。

実家を見ると、玄関の前が地割れで2センチ

位沈下していました。

玄関のガラス戸は割れて、カギが掛からない状態、一泊するので主人は外からガラスをはずしてカギを取り替え直しました。1階の部屋では、障子戸が半分しか開かず蛍光灯が落ちて割れていました。2階は雨漏りで天井がぶら下がり、畳はびしょ濡れ、窓はガラスが無くカーテンは雨風でひらひら、それも主人が窓枠に一時しのぎのベニヤ板を打ち止めました。立てかけてあったガラス戸が数枚倒れて割れ、私はあちこちのガラスを片付け、二人は暗くなっても夕食も食わずに大仕事やり遂げ、大変な一日でした。

また、年老いた母が一人で居たとしたらもっと大変な事になっていたと思いました。

97年、母85歳の秋、椅子の上から転び、腰椎圧迫骨折で、長岡日赤病院に入院、そして、医者から退院後は一人の生活は無理と言われました。主人は、「娘の所がいいんじゃないの」と言ってくれました。私はその言葉に甘え、長岡から館林の我が家に母を呼び寄せ、私達が面倒を看て、90歳で亡くなりました。

そして、長岡の家の解体の話合いも出来て帰って来ました。不幸中の幸い、一つ目の難問を突破出来ました。

主人は、一昨年、昨年と観たことのない長岡祭の花火を、土手で観ることも出来、感動した思い出の長岡でした。 芋



天災はなぜおこるのでしょうか

長岡市川崎 細川 延行

……私は現在、三島町のある家具工場勤務しています。

地震当日は土曜日で残業はなく定時の5時半過ぎに終了後、2階作業場を掃除し5時50分終礼して退社となります。

ところがその日は大量の廃材廃屑が出て終礼に間に合わなかったのが皆が帰った後、社長と私は残りの掃除を続けていました。

その最中56分発生、室内が大きく揺れる、棚から物が落ちる、さらにだんだん揺れが大きくなり、2階から戸外へ出る事が出来ずさすがにワーと悲鳴をあげてしまいました。大変大きな揺れが約15秒以上も長く続きこれはただ事ではないと思い、怖かったです。昭和36年の長岡地震、39年の新潟地震よりも今回は最大でしたね。

とにかく家には83歳の母がおり、心配になり急いで帰路へ、長岡大橋に通ずる国道は渋滞、やっと7時過ぎに帰宅、母は外に避難して無事怪我も無く良かった。妻はパートから9時過ぎに帰宅して無事、東京の息子、友人から電話がありお互いに無事を確認し合った。また何時余震が来るか不安。

そして、8時過ぎ消防車が来て、川崎地区でガス漏れの危険があるため東北中学校へ避難指示、9時半過ぎ避難所へ毛布等を持って行きました。そうしたら、鉄工所を営んでいる妹夫婦に会い、その耐震構造の鉄工所2階休憩所を一時避難所として、親戚4世帯8人がそこで一夜を明かしました。夜中じゅうたびたび強い余震と地鳴りの音がして、不気味な夜を過ごしました。

翌朝、テレビニュースで新幹線脱線の映像が、改めて大地震だと思いました。

翌日曜日、家内の実家が半壊したというので、部屋の崩れた土壁を取り除きの手伝いに行きました。

私の家屋の被害状況は屋根部分が曲線状態になり、トイレ、風呂場、玄関等のタイルに亀裂と

剥がれ、その他天井、壁、土台等にも亀裂が出、一部損壊の状況でした。被害もその程度で済んでよかったですと思います。

ともかく皆の命があって怪我も無く無事で何よりでした。

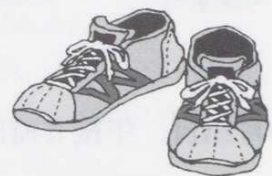
同じ大地震被害でも秋の取り入れが収穫後であったこと、そして11月に入る寒い降雪時でなかったことが季節的にも良かったのではないのでしょうか。

地震から半年が経ち今年も19年ぶりの大雪に見舞われ大変でしたね。春に入り各地で復旧工事等は容易でなく大変ですね。

数日後、堀口晴夫さん夫妻が様子を見に来ていただき本当にありがとうございます。……………

平成17年4月28日 芋





10・23新潟県中越地方大震災

長岡市学校町 室橋 タイ子

10月23日、恒例の姉弟旅行で長瀬温泉に出掛けました。4時頃に宿に到着、温泉に入りこれから食事と思った時、地震がありカーテンが少しゆれました。皆気にもとめず「さあ乾杯！」「でもTVをつけて地震は何処かね」、それからが大変、震源地は新潟県中越地方！と、ご馳走どころではなくTVに釘付け、電話も通じず、TVにも長岡の情報は無く不安は募るばかりで一夜をあかしました。

翌朝、水、食料を買い込み、関越道、上信越道を経て柏崎インターで4時間位待たされでし

うか。たくさんの緊急車両が関東周辺から来て、大災害なんだと感じました。

真っ暗のなか、9時我が家に到着、おそろおそろ鍵を開け、幸いにも電気がつきました。あらゆる物が落ち、ガラスは割れ、いままで見たこともない光景でありました。なんとか休む場所をと掃除機をかけ、懐中電灯を枕元に、避難口を確保して一晩過ごしました。

翌日、家中の壁の亀裂、ひび割れ、タイルの崩落、家電製品の落下、何から手を付けてよいか…。

また、自衛隊の車両、ヘリコプターが行きかい、避難所に大勢の人が居て、他人事と思っていた大災害が目の前にありました。

留守中の出来事だったので

- 1 出掛ける時はお隣に頼む
- 2 懐中電灯の用意
- 3 家電製品のコンセントを抜く(落下したトースターに電気を通じ、タイマーが壊れ火事になるところでした?)

最低これだけ守っていきたい。

本田真吾さんからお見舞いの電話を戴き、ありがとうございました。余震の続くなか、何もする気力もなかったのですが、少し元気が出ました。

4月29日、悠久山へ花見に行きました。地震と大雪で、今年ほど桜が見たいと思ったことはありませんでした。灯籠は倒れ道路は陥没し無残なままでしたが、桜は綺麗に咲いていて何かほっとする気持ちでした。

参道の両側に仮設住宅があり被災者の方が住んでいらっしゃいますが、自宅で生活できる幸をつくづく感じました。芋



10月23日・その時

長岡市新保 東條 文孝

仕事を終え、家に帰る途中だった。急に自転車が走らず、ふらついた。いったい何が起こったのか判らなかつた。頭がおかしくなったかと思った。地震だと感じ、回りをみると“大きな地震だ”と声をかけられた。暗くて回りの様子は判らない、急いで家に、途中、電話を数回するが通じない、お寺のブロックが倒れている。家はどうなったか、怪我をしていないだろうか、色々なことが頭に自転車を走らせた。平成橋あたりで大きな揺れにあう、ようやく、家に着き、家が建っているのを見、女房、子供の無事を見ホットしていると、またまた大きな揺れ。

家の中は、茶ダンスが倒れローカを塞いでいる、2階は足の踏み場もなく物が散乱。

女房は「やっと2階から降りた、もう上がらない」とその時の恐ろしさ話す。この時から1階だけの生活が始まった。

揺れるたびに外に出、町内の人達と恐ろしさを語り合う。“ヘルメットをかぶって”“座布団を頭に”“一人暮らしの山崎さんはどうしたか声をかけて”などと色々指示のような声を出す、皆心強かつたと思う。

ガスは止まったが、電気・水道は止まらず良かった。真っ暗になると不安が増す。どうにか自分の家で家族3人、枕を並べて一夜をあかした。

大きな余震が有る中で、家に入れず車の中でたびたび過ごした。

ニュースで被害の大きさを伝えていたが、我が家は、大きな被害もなく、風呂のタイル、壁のひび割れ、茶碗類の割れ、屋根瓦のズレなど、どここの家でもあった被害と思っている。

一番の被害は心に受けたキズだったようです。被害にあった場所を通る時恐ろしさがよみがえり不安になる、女房は2階へ上がれないなど、余震があるたびにあの時の恐ろしさが体に反応する。

60年の人生の中で最大の災害にあったが、

家はそのまま住め、入院もせず、病気にもならず、今日あることが一番の幸せと思う。

また、人は支えあって生きているというが、地震の大きな揺れの中で、声を掛け合い、励まし合いつて来たが、これからはこれからの人生に大きな力となっていくと思う。

3年7組の皆さん、本当に恐ろしい日々でしたね、いつまで元気でいましょう。芋



地震その時

長岡市青葉台 種岡 由美子

10月23日その時、私は自宅に一人で居りました。夕食の準備でもと、ガスを点けた時ドーンといきなり強い衝撃を感じて、地震だと気が付くまで一瞬の間がありました。ガスを止め、よろめきながら部屋に走り座卓の下に潜り込みました。物が割れる音、家中が軋む音等、初めて耳にする奇怪な音でした。

もう家は倒れるかと思えたり、まして物なんか知らない、生きてさえいればいいと、アッサリ覚悟の心境でした。それ程、なす術のない大地震でしたね。

停電した暗い家の中に較べて、月夜のきれいだった事、普段気にしながらも被災時の生活用品を取り揃えていなかった事、毛布を持ち込み朝方の冷え込みが厳しかった車中での2晩、本震よりもひどかつた11月4日の余震の際の被害、いつ終わるとも知れない余震の恐怖等、忘れてくてもまた、思い出すあの時の様々なこと。

けれど身近に仮設住宅で暮らす方々を見るにつけ、一部損壊で、そこそこの修理で済んだ事の有難かつたと思っています。

遠方にいる身内やかかわりにある方々からの励まし、ご近所同士の思いやりなどがうれしくて思いを新たにしました。芋

地震・大雪散々な年

長岡市大島本町 小柴 幸子

10月23日夕食の準備を済ませ夕食の時間待っていた。すると突然下の方から突き上げる様な激しい音と共に揺れが来た、一瞬何が起きたのかと思った。

電気が消え、孫が泣き一時はパニック状態になった。私は介護中の2人を主人と外に待避させ、頻りに襲って来る余震に外で震えながら町内の人達と共に居ました。

カーラジオから地震のニュースを聞きながらただ驚くばかりで何もすることも出来ずに居ました。

電気・ガス・水道がまったく使えないため、翌日から嫁と孫2人そして、介護中の父母とで避難所生活に入りました。

25日の夕方ようやく電気がつきほつとした、それまでの暗い3日間は本当に辛かつた。

26日から、母がこぶし園に1週間お世話になることになり少しは楽になりましたが、余震に怯える毎日でした。

また、地震に追いつちをかけるように大雪になり散々な年でした。芋



生後7日日子犬4匹

長岡市川崎 須佐 洋子

自営しているコーヒーショップ「あざみ」で夕方の仕込みが終わり、一息ついて、来客用のテレビを見ていた時でした。ものすごい揺れでバック棚から営業用の高級グラスなどが落下し壊れるなど、

ただならない状況が発生したと感じました。

我が家の犬が1週間前に子供を4匹産んでいましたが、親犬は誕生7日目の子犬をかばって音も息もださずにジットしていました。

どうなるものかと心配しましたが、グラスなどは壊れましたが、幸い家の被害は少なく、主人も私も、犬も怪我をしなかつたので不幸中の幸いと感じました。

マイカーの中で寝たり、ガスがこないでカセットコンロで料理するなどの不便な生活を何日かおくりましたが、命が助かれば何とかなると前を向いて頑張っています。芋



役に立ったいなり寿司

長岡市幸町 樺沢 秀子

その日、いなり寿司をつくりました。私の間違いで50個も作ってしまい、母とそのいなり寿司を食べ終わり、こんなに沢山のいなり寿司をどうしようかと話していたら、その時に地震がきました。

驚いて母をつれて外へ避難しました。

余震がちよつと落ち着いた時に家に入って、2階にあがり、日頃からリュックに詰めておいた貴重品と現金、それに懐中電灯を持って、また外に避難しました。常に貴重品をリュックに詰めておくのは、台風で被災したことのある母の教えでした。

外に避難した人に、間違つて大量に作ってしまった「いなり寿司」をくばり大変喜ばれました。我が家は電気が落ちなかつたので、嫁がすぐまたご飯を炊いておにぎりをつくり、皆さんにくばりました。

電気の消えなかつた我が家では全員一階で肩寄せ合つて寝ました。困つたのは水道が濁り、飲料水に困り、味噌汁もしばらく飲めない状態が続き、何回か飲料水をもらいに行きました。

家の被害は、風呂のタイルが崩れましたが、主

人が補修しました。

また、孫がトイレに行けない、2階に行けないなど、恐怖体験から一人行動が出来なくなっていました。

想定外の地震に恐怖を感じたと同時に、なぜか大量に作ってしまった「いなり寿司」が役立つ結果となって不思議な思いをしました。芋



バレエスタジオその時

長岡市緑町 原田 澄子

バレエスタジオで行っていたレッスンを他の指導者に引継ぎ、3階の自分の部屋に上がった時に最初の激しい揺れがあり、目の前で家財道具すべてが倒れました。その時、ダンス中身が凄まじい勢いで飛び散りました。本棚も倒れて本や書類が部屋中に散乱しました。

食事をとっていた主人はガラスの破片で足を怪我してしまいました。

レッスン中の子供たちは外の公園に集合させ、家族の迎えの体制ができた子から帰宅させましたが、小出方面の子供たちはスタジオで一泊して、同伴していた親が磐越道経由で一緒に戻りました。

散乱した物の中には歴史や教育関係の重要な図書や文書がありましたが、とても整理できる状況でなく、残念ながらすべてゴミ処分しました。

一時休んだバレエスタジオは、長岡市内どこのスタジオよりも早く1週間後に再開し、今年の6月11日には田沢澄子バレエスタジオとして第40回記念発表会を実施することができました。

建物については、スタジオだけは2月に外壁を取り替えることができました。

地震後の生活は、10日間にわたり車の中で寝まして、その後11月の1ヶ月間はレッスンが終わるとスタジオで生活し、12月下旬にようやく3階の住宅での生活に戻ることができました。

また、2匹の猫が行方不明となり、とても心配で、その時は血圧が190まで上昇してしまい、その後は薬のご厄介になっている有様です。芋



長岡に居る独り暮らしの母

川崎市多摩区 天野 紀子

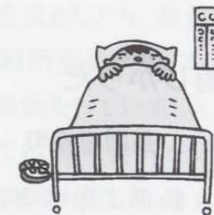
長岡で地震が発生の時、私は孫と買い物をしていました。家に帰りテレビを見て、長岡に大地震が発生して大きな被害がでていることを知りました。

長岡の中島には84歳になる私の母がひとり暮らしをしていますので、すぐ電話をしましたが中々通じなくて、とても心配になりました。しばらくして母は前側の家に無事で身を寄せていることが判り安堵しました。

あくる日、母は自分の実家である見附の方が迎えに来てくれて1週間見附に避難していました。

私は3週間後に長岡に行き、その後はちよい、今は毎週のペースで長岡に行き、ひとり暮らしの母の様子をみて手助けをしています。

母はやはり地震の恐怖から精神的に衝撃を受け、一人の時は風呂に入れられないなどの状態となり、さらに今は体調を崩しています。芋





差し入れが嬉しかった

長岡市本町 津田 稔

お客さんと津田自動車工場の事務所で世間話をしていました。

突然大きな音がして工場がものすごく揺れました。地震だ、お客さんと一緒に外に飛び出そうとしたのですが、工場が揺れる恐怖と工場の床が波打ち、気持ちがあせり、足がもつれて、やっとの思いで外へ逃げました。

外から見ると、自分の工場が大きく揺れているのが判かり、地震の大きさにあらためて恐怖を感じました。

近所の駐車場に近隣の人たちが集まり、余震の恐怖の中、どうしたらいいか相談しました。

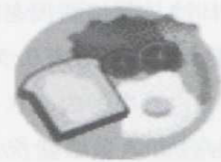
事務所で一緒にいたお客さんは中沢まで帰ったが、中沢は被害が大きく、道路は随所で凸凹状態どうやって帰ったか覚えていないといってい

ました。

私は、車の中でも寝たし、母校表町小学校で3日間避難生活をおくりました。あふれかえる大勢の人、余震のたびの恐怖、不自由な避難生活をおくった体験は一生忘れることができません。

工場では自動車の修理中の車がなかったことが幸いでした。自動車を持ち上げていた最中だったらと考えただけでゾットします。

同級生の佐藤康夫君が何回か食料を運んでくれて助かりました。芋



釣り用のカップラーメン

長岡市上条 永井 市子

その日は見附に嫁いだ娘が孫二人を連れて遊びにきていて、その時、娘と孫はお風呂に入っていました。突然の激しい揺れに驚き、孫を風呂から出して抱きしめました。

家の中には怖くていられないので、近所の人たちと一緒に外に集まりました。我が家は夕食がまだでしたが、お隣からいただいて食べることができました。

外は夜になって冷え込みが厳しくなってきたので、近所の人たちと一緒にまとまって旭岡中学校の避難所に行きました。既に畳の部屋は満杯だったので、電灯のついている踊り場というような場所に、持参した毛布を使い陣取りました。避難所でも余震のたびに恐ろしさに震えていました。

24日になって11時ごろ朝食として若干の食料がくばられました。

昼頃に娘が見附に帰り、自宅で暖かいおにぎりを作って持ってきてくれたので、近所の人からも大変喜ばれました。

住宅の被害は少なかったのですが、自宅に帰ってからも恐怖でしばらくは服を着たまま寝てい

ました。

地震の時に生活で役立つものは、カセットコンロと主人が魚釣りのためにいつも準備していたカップラーメンでした。芋

さわし柿

長岡市宝町 品田 健一



その日は仕事を早めに切り上げ、品田ミシン商会の事務所から宝町の自宅に向かって車を運転していました。城岡橋の手前に来たところで車が縦に揺れた感じで、同時にハンドル操作が出来なくなり、最初は故障かなと思いました。助手席に乗っていた妻が脇に寄せと言うが、スムーズに行きませんでした。

しばらく停まってから、少し落ち着いた頃を見計らって自宅に向け出発しました。家に着き車を車庫に入れる時に横揺れがきました。

家には入れる状態でなく、近所の人と一緒に外に出、だんだん寒くなってきたので、近所の方が石油ストーブをガレージに出してくれたので、そこに皆で集まりました。妻がさわし柿の皮を剥いて皆さんにくばり喜ばれました。

その後、電気も消えなかったので、家に入り玄関近くの部屋で休みました。

家の被害状況は、玄関の飾り皿が落下して壊れ、引き戸の戸棚の中がゴチャゴチャに損壊しました。

幸いライフラインが正常だったので、避難所に行くことも無く生活は早く元に戻れました。

ただ、麻生田にある妻の実家は被害が大きく、母親が車の中での生活が影響して動けない状態となってしまったので、我が家にしばらく来てもらい、3人で暮らしました。正月前にかなり回復して麻生田町に戻りました。

ひとり暮らしがだんだん難しい状態になっているので入院を考えています。芋

修行中の万座で

長岡市希望が丘南 今井 達夫

私は今、海拔1800メートルの群馬県万座で仏門の修行をしています。

地震発生の際は、修行所で夕食の支度をしていましたが、突然激しく揺れました。当時、万座方面では浅間山の噴火が囁かれていた時であり、てっきり浅間山が爆発したものと思いました。夜になってテレビを見て長岡が大地震で大変な状況になっていることを知りました。

急ぎ、娘が一人で暮らしている長岡へ向かい、6時間掛かって到着しました。

長岡のアパートはタンスがひっくり返って散乱していました。幸い食器棚が倒れなくて、食器類は損壊がなくとても助かりました。

私は1週間希望が丘の避難所に入り、昼間はビビの入った風呂場を修理をしたり、ボードを打って部屋の補強をしたり、片付けをしました。娘は2週間位避難所暮らしをして、その間避難所のボランティア活動をしていました。

避難所では最初食料や水に不安がありましたが、徐々に解消しました。

2週間でライフラインが復旧し、アパートの修理も終わったので、万座の修行所に戻りました。

私の修行は来年まで続きます。

今回の地震により、長岡で一人暮らしをしていた姉が、ショックで体が動かなくなって寝たきりとなり、東京の姉のもとに行き入院してしまいました。

万座で307の皆さんの安全を祈りつづけております。芋



東京での2週間

長岡市宮原 八木 フジ子

10月24日から東京の姉と旅行をすることになっており、前日の23日は東京の姉の家におりました。地震発生の際は東京も揺れて怖い思いをしましたが、まさか長岡が大変な状況になっているとは思いませんでした。

入浴中だった義兄がテレビをつけろというので、テレビをつけてビックリ、長岡が大変なことになっている。

家族の安否を確認したい。災害時は公衆電話がつながり易いということなので、公衆電話を利用してなんとか連絡ができました。長男家族は無事で、操車場跡地に近所の人とともに野営している(今は太田地区の仮設住宅が建っている)。

鉢伏に住む娘のところは山古志で養鯉業を営む娘婿が、「翌日になって泥だらけになって山古志から歩いてたどりついた」ということでした。とにかく全員の無事が確認できてひと安心しました。

自宅の被害は、壁、トイレ、風呂場の一部損壊、食器棚が開き食器類の一部が壊れました。あと片付けは長男と嫁がやってくれました。

東京でそのまま疎開を続けていましたが、2週間でホームシックにかかり、何とか長岡へ戻れる方法を探して欲しいとたのみ、新幹線の湯沢からバス代行で一便だけ長岡へ向かうことが出来ると聞き、急ぎ長岡へ向かいました。

長岡に着き、我が家の無事を見た時はホッとしました。芋



懐かしい同級生と再会

妙高市池の平 藤田 紘子

その時は鍋をかけて調理中でした、ドツンと衝撃があり、何か大変なことが起きたのではないかと感じて、とにかく急いで食事を済ませました。

テレビの報道を見て、中越地方で大地震が発生し、長岡も大きな被害が出ていることを知りました。

何か手助けをしたいと思い、高速道路が開通したらすぐに、赤飯を三升炊いて、主人と2人で長岡の親戚を回りました。

町うちの親戚は比較的被害は少ないようでしたが、郊外の方では被害が大きい所があり赤飯の炊き出しは大変喜ばれました。

また、地震のあと八木フジ子さんが熊倉貴子さんと連絡をつけてくれて、2人が池の平のペンション・ブラウニーに遊びに来てくれました。

阪之上小学校、東中と、ズット一緒にやってきた懐かしい友達と会うことができ、地震後の疲れをふっとばすことができました。芋



地震後のメール

福島市 野地 弘子

10月23日 午後9時26分

今テレビ見えています、長岡が地震で大変ひどい状況の様ですが大丈夫でしょうか？

岩井トシ子さんへ連絡入れたところ、六日町の自分のところは大丈夫だけど、停電しているとの事でした。私の実家とは連絡がとれなくて心配しています。

10月25日 午前10時43分

心配しながら何もしてやれずにいます。道路も寸断されているようですし、行くにも送るにも、今

は無理かなと、今朝も長岡の妹と電話で話しました。妹も車の中で寝ているとのことでした。

今もテレビで366回の揺れがあったといっています。寒くなり天気も気になりますが、皆様体調に気をつけて頑張ってください。

心配するのみですが、一日も早く心安らぐ事ができますように、お祈りしています。

(福島市の野地弘子さんから堀口へ地震後のメール野地さんの了解を得て作文代わりとしました)芋



近所との絆

長岡市来迎寺 佐藤 康夫

24日真夜中、練馬インターを通過し、高速道長野経由で行けるところまで行こう、私と娘とその仲間4人のレンタカーは飛ばした。被害はどんな状況なのかと車中で心配しながら。途中、松代のサービスエリアでトイレ休憩を取ったとき、20台位の大型バスも止まっていた、そのバスは神奈川県警の救援隊のバスだった。そのバスの先になり柏崎の手前で高速道を降ろされ、朝方5時半頃に町外れのコンビニで飲料水と思ったが、既にストッカーにはほとんど飲料水は売り切れ状態で、僅かな残りを買い、出雲崎の中永トンネルを抜けたとたん道路の陥没、マンホールの蓋は突き上げ、大根が土から踊り飛び出している畑などの光景が目に入る、これは相当大規模の被害に違いないと思った。7時半頃長岡に着き家族と親戚、近所の無事を確認した。

10月23日午後5時56分、東京は新宿とあるビルの5階、昼から皆で懇親を深めた有志のミニ同級会、別れ難く2次会の席上のことである。今日は1年前表町小学校の3クラス合同の還暦同窓会の席上、在京の有志で来年東京に集まろう

ということになり、鈴木美代子さんが中心となり今日集まった会なのです。

生ビールが運ばれサア一乾杯と、その時、大きく揺れた、そして、また、大きな揺れ、地震だ一、どこが震源地だろうか、しかし、なかなか情報はつかむことが出来ない、やっと、店員からの情報は震源地が新潟県中越地方、もう宴会どころの騒ぎではない、飲むのもソコソコ肴をつまむどころの騒ぎでなくなり直ぐに散会となった。

娘のところに行き、携帯で家へ連絡を取るが繋がらない、情報が入ってきたのは11時近く、広島に居る弟から携帯で「皆無事」とのこと、しかし、ほっとしていることなど出来ない、帰らなくては、娘がレンタカーを使って帰ろうと言い、早速、レンタカーを確保し、コンビニで食料等を補給して寝ずの帰還となった。

家の中に入ると、食器棚の扉は開き半分以上食器が無残な姿、本は足の踏み場も無いくらい散らばり、洋服たんすも倒れていた、家族がその時そこにいなくてよかったと胸をなでおろした。

しばらく経ってから、時間を見つけ出掛けた、実家・親戚や津田君、藤川君らを回りお互い顔見合わせホッとした。だが、自宅の周辺を歩くと巴が丘袴線橋は陥没がひどく交通止め、越路中学校では外壁の亀裂などで閉鎖、道路は黒い稲妻のよう割れが走り、陥没・段差はいたるところ、目視で判る建物の傾き、砂が吹き上げた田んぼ、鳥居が片方だけになった神社など大きな被害が目に見え込んで来た。

避難勧告が出ていたが、しばらくの間、家族は親戚の中島に避難させ、僕は避難所に行かずひとり家で守る。日中は隣の家の鉄骨造り車庫で、近所の4家族で助け合い励ましあいながら共同生活が続く。それぞれの家庭から持ち寄った食べ物、飲み物と町からの支給される救援物資で補い合っし、夜は車中で過ごし11月3日避難勧告解除まで避難生活が続いた。

この間、どのくらい近所との絆が深まったことか、それもこれも、お互いの家屋の傷みがあまり無か

ったことやけが人も出なかったことによるものだと思っ
ている。電気がつくまで町内のほぼ全域は静寂で真っ暗、僕らの4家族の所だけ懐中電灯の灯りの下にぎやかな会話の毎日を過ごしながら日に日に絆が強くなっていった。

また、地震で多くの方から、励ましや見舞いを戴き大変嬉しかった。ボランティア精神の末席にと思
い、12月から3月まで越路町役場臨時職員として地震で壊れた廃棄物処理相談窓口業務に携わった。その業務を通して、この地震の被害の大きさを改めて思った。

それに、地震から受けた精神的な傷は今も心のどこかにあるようです。僕を含めて。……芋



伝統溝法・軸組中心構法への確信

長岡市春日 藤川 茂

その日は土曜日、午後5時半頃長岡郊外に在る、寺宝温泉に疲れをとりに出掛けました。

体を湯舟につけたとたん、ゴーと云う地鳴りがし、硝子や建物が「ガタガタ」と振動しはじめました。これはなんだと思ったとたん地の底から突き上げられ、と同時に強烈な横揺れが襲ってきました。お湯は波立ち一瞬にして、洗い場に溢れ、お湯は三分の一になっていました。周りは悲鳴や怒声でいっぱいです。

冷静にならなくてはと思い「まずはなるようになれ」と覚悟を決め、自分は肩までつかっていない、これだと風邪を引いてしまう、まず少し温まろうと湯につかり、体を洗っていると、2回目の地震がやって来ました。その間の時間はすごく長く感じられました。脱衣所に戻り、服を着、自宅に電話を掛けますが通じません。あたりを見ても真っ暗で誘導灯のみ、急いで自動車に乗り大手大橋を渡り自宅に戻りました。後日判ったことですが橋と

道路は15cm段差が出来たのです。

家族は2階の階段の近くに身を寄せて固まっていた。

余震が次から次へと襲ってきます、立って歩けなく、ただ、「大丈夫だよ」互いに励まし声を掛け合うだけです、何も行動が出来ないので、こんな体験はした事ありません。揺れが落ち着いたところで急いで自動車に移動しました。

それから3日間車での生活をしました。

自宅に戻ってからも、自家の状況をかえりみる余裕はなく、今の工事現場の点検、お客様からの問い合わせに対する対応、立て替えや修繕相談、そして実際の工事に入っていくこととなり、休日も取れない状況となって行きました。

藤川建設が主張し実践してきた、県産材を活用した伝統構法(金物をほとんど使わず軸組中心構法)による完成間近の工事現場が2棟あり、いずれも長岡の乙吉と小千谷市という激震地でありながら全く無傷が確認され、耐雪、耐震に優れた大工技術だとあらためて確信しました。

家族は、長男の嫁さんが、妊婦であり危険を避けるため孫2人と一緒に湯沢に避難しました。

山古志に住む自分の弟子が、長岡に避難しましたが、家族、友人に大きな被害はありませんでした。

307のそば収穫も遅れながら実施でき、手打ちそば忘年会も予定どおりやれて良かったと喜んでいます。また、忘年会には交通状態もままならない中で、厚木から鈴木美代子さんが駆けつけてくれて感激でした。

今までそばを栽培した場所は、山古志や川口で池がつかえなくなった養鯉業者のための大きな池が掘られました。従って今年は少し違う場所でそばを栽培することになります。

今年も力をあわせて頑張りましょう。芋



懐かしい空き家・見舞金ゼロとは

東京都富島区 小島 健吾

東京でも震度2~3が計測された中越地震発生時刻には近所の小料理店に居ました。東中(3年上)出身のママが新米こしひかりや長岡野菜のなど直送品が入荷したのでぜひとの誘いなので楽しみにしていたのです。

1 杯目のビールと付き出しが食卓に運ばれたとき、グラッと揺れて棚の食器類が擦れ合う音がして電燈が揺れ始めたのです。体感でも近来稀な規模がわかり、更に強い本震の来襲も危惧され暫く無気味でした。周囲を見渡すと、小さな器物の落下・破損は無く被害は軽微と安堵してビールを空けました。日本酒の棚を眺め郷里地酒の多くの銘柄から何を注文するか考えていたとき、上越出身の近所の豊屋さんからご注進があり、関心事だった震源地は川口・小千谷辺りとママに見舞いを言っているのが俄然、当事者気分に戻り皆でテレビニュースを注視することになりました。

だんだん震源地や周辺の惨状が明らかになり、近距離にある長岡も大変だとママが実家や友人に電話を掛けましたが全部不通なので音信は諦めることにしました。その間、飲食も中断し気分も失せたので辞去し帰宅しました。

現在の長岡は、両親が亡くなって永い年月が経つので、私と弟各々名義の古い空き家が2軒あります。近親者は叔母ばかりで、老婆なので老人施設に入居して快適な様子です。

私の空き家の片付けは5月連休に帰って2日間かかりました。私は3月末日で定年でしたが、新潟市の弟と妹の子供達も千葉や大阪の大学から帰省させて手伝ってもらいました。家の中はテレビ・たんす・棚が倒れ中身が散乱し、剥落した壁や線香の灰などが飛散して灰かぐら状態の部屋もありました。玄関のガラスが割れ、戸が外れたり歪んだりスミーズな戸締りができません。障子の多くが破れ、雨どいが曲がって捻れました。このように部分修理が多いので荷物の処分後に

更地にすることに決め、帰省時は安ホテルに宿泊することにしました。弟の空き家は来春に更地にする手はずと聞き、羨ましい気持ちです。

震災後、東京でも駅頭や寺社門前では義援金の呼び掛けが長期間続きましたし箱も設置されていました。見舞いや支援活動は方法が様々で、飲食店の箱など「知らない人より俺にくれ」と、よく冗談を言って回りました。会社では局回覧があって、全員が千円札入れて署名していましたが、初詣に行ってもほとんどの人が千円札を入れているので、赤い羽根・緑の羽根募金とは全く違う光景でした。厳冬・豪雪へと続くダブルパンチを不惑に思ういたわりの気持ちがわかり、私も十数回募金したことでした。

しかし、震災当日住民票が長岡に無い私や弟の空き家には見舞金はゼロでしたし、住民票を老人ホームに移す法令のため自宅を空き家にした叔母も支援金ゼロでした。地方行政担当者には苦言を呈し、八つ当たりしたい気分です。

古い長岡人を追い立てるとは！芋



